

令和元年度 第5回広島市感染症対策協議会

令和元年9月17日

- 【日時】 令和元年9月17日（火）19:00～20:00
【場所】 広島市役所14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、堂面 政俊、
増田 裕久、藤本 三喜夫、長岡 義晴、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

（1）風しんの追加的対策について（資料1 P1～12）

8月7日に開催された第32回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会において、風しんの追加的対策の実施状況について中間発表があった。それによると、7月までに全国1,741市区町村のうち、93.6%の市区町村が抗体検査及び予防接種を受けるために必要なクーポン券を対象者に配布し、事業を開始している。

本市においては、4月8日にクーポン券を対象者（平成31年度到達年齢が41～47歳の者）に送付するとともに、送付対象者以外の者についても申請に基づきクーポン券を交付（9月13日現在、785人に交付）しており、7月末までに7,800人に抗体検査を、1,700人に予防接種を実施している。今後も市のホームページやSNS等を通じて周知を図っていきたい。

（委員意見）

- ・ 引き続き、対象者への周知を図ることで受検率の向上に努めてほしい。

（2）B型肝炎ワクチンの供給について（続報）（資料1 P13～18）

8月7日に開催された第21回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会において、B型肝炎ワクチンの供給見込みについて追加報告があった。

前回の部会（4月8日）で、MSD社が早ければ2019年10月以降に国内供給を継続できなくなる恐れがある旨を報告して以降、B型肝炎ワクチンの販売量が増大しているが、需要が増大する要因は特段見受けられないため、これについては供給不安に対してワクチンの確保を前倒しする等の動きが生じている可能性が指摘されている。

また、今後のワクチン供給については、国内市場にB型肝炎ワクチンを供給しているKMバイオロジクス社に対して増産を依頼しており、当分の間、KMバイオロジクス社の増産分のB型肝炎ワクチンが継続的に供給されることから、需要に大きな変動がなければ、ワクチンが不足する懸念はないものと報告されている。今後の対応については、MSD社の供給再開時期の見込み等の更新情報を踏まえ、改めて議論することとなった。

本市においては、引き続き医療機関等からワクチン不足に関する報告があった際には、広島県と連携しワクチンの確保に努めていきたい。

（委員意見）

- ・ 医療機関からワクチン不足の報告があった際には、速やかに広島県と連携してワクチンの確保に努めてほしい。

(3) 平成 30 年 結核登録者情報調査年報集計結果について (資料 1 P19～55)

8 月 26 日、厚生労働省は平成 30 年の結核登録者情報調査年報集計結果について公表した。

集計結果によると、平成 30 年の全国の結核新登録患者数は前年(平成 29 年)より 1,199 人減の 15,590 人となり、罹患率(人口 10 万人対)は、前年より 1.0 ポイント減少し、12.3 となった。一方、外国生まれの新登録結核患者数は前年より 137 人増加して 1,677 人で、新登録結核患者に占める割合は 10.7%であった。また、年齢階級別の新登録結核患者数は 80 歳以上が約 4 割を占めており、高齢者の結核患者の増加傾向は続いている。

国は結核の予防指針により、2020 年までに罹患率 10 以下を目標としており、なお一層の結核対策を進める必要がある。

(委員意見)

- ・ 罹患率のさらなる減少に向けて、引き続き結核対策に努めてほしい。

2 7 月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料 2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	8 月分	9 月分
		届出日 8/5～9/1	届出日 9/2～9/11 現在
2 類	結核	12 人 (結核 7 人、潜在性結核 5 人)	
3 類	腸管出血性大腸菌感染症	1 人 (8/7)	4 人 (9/2、9/6 (2 人)、9/11)
4 類	A 型肝炎	1 人 (8/8)	
	日本紅斑熱	1 人 (8/21)	
	デング熱	1 人 (8/26)	1 人 (9/2)
5 類	アメーバ赤痢	1 人 (8/8)	
	ウイルス性肝炎		1 人 (9/5)
	水痘		1 人 (9/9)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2 人 (8/7、8/21)	
	梅毒	8 人 (8/7 (2 人)、8/8、8/9、8/20、8/23、8/26、8/28)	1 人 (9/2)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 人 (8/8)	
	百日咳	22 人 (8/5 (2 人)、8/19、8/23 (18 人)、8/28)	7 人 (9/2、9/5 (4 人)、9/6 (2 人))

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和元年10月21日（月） 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：8月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

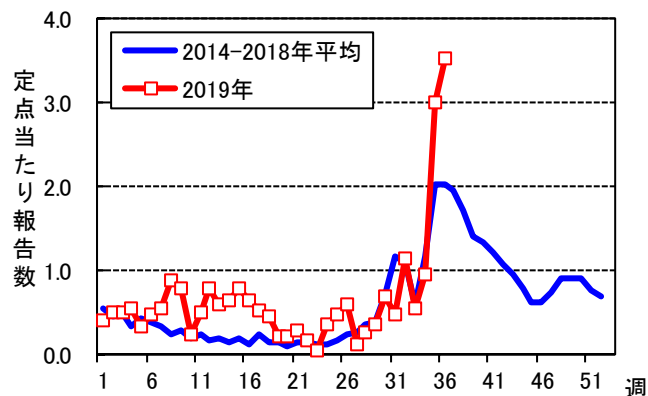
定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、8月は1,007人で、前月比0.54と減少した。

インフルエンザ、RSウイルス感染症は大きく増加、伝染性紅斑、突発性発しんはやや増加、水痘はほぼ横ばい、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎はやや減少、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少、手足口病、ヘルパンギーナは大きく減少した。

(2) 特記事項

- RSウイルス感染症の報告数が、8月下旬から急増し、第36週(9月2日～9月8日)は定点当たり3.54人の報告があった。RSウイルスは生涯にわたって感染を繰り返し、症状は軽いかぜのようなものから細気管支炎や肺炎などの重篤なものまで様々である。感染経路は患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスが付着した手指などを介した接触感染が主だが、1歳未満の乳児に感染すると重症化することがあり、特に注意が必要である。感染予防には、手洗いの励行、咳などの症状がある場合はマスクを着用する、おもちゃや手すりなどはこまめに消毒するなどの対策を徹底することが大切である。
- インフルエンザは、第31週(7月29日～8月4日)以降、報告が続いており、第36週(9月2日～9月8日)には21人(定点当たり0.57人、A型18人、B型3人)の報告があった。この時期としては、報告数が多くなっており、今後の動向に注意が必要である。
- 百日咳は2018年1月から全数把握疾患となり、2018年の累積報告数は61件であったが、2019年は第35週までに55件の報告があり、増加傾向がみられる。年齢の内訳は10歳未満が49%、10歳代が29%を占めている。百日咳は、百日咳菌による感染症であり、患者の咳やくしゃみなどのしぶきや痰に含まれる細菌によって感染する。かぜ症状で始まり、徐々に咳の回数が増え、咳の症状も激しくなる。年齢が低いほど、無呼吸発作など重篤な状態になることもあり、特に乳児で注意が必要である。定期予防接種前の乳児への感染を防ぐため、咳エチケットを心がける必要がある。

RSウイルス感染症の定点当たり報告数



(3) 8月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 12件（患者：7件、潜在性結核：5件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1件
- 4類感染症：A型肝炎 1件 デング熱 1件 日本紅斑熱 1件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2件
クロイツフェルト・ヤコブ病 1件
梅毒 8件 百日咳 22件

(4) 今後の流行予測

手足口病・・・【流行終息傾向】 ヘルパンギーナ・・・【流行終息傾向】
RSウイルス感染症・・・【流行始まり】

2 検査情報

8月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
咽頭結膜熱	アデノウイルス 3 型	7 月	1 人
手足口病	コクサッキーウイルス A6 型	7 月	3 人
	*1 コクサッキーウイルス A6 型	7 月	1 人
	*1 ライノウイルス		
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A5 型	7 月	1 人
	コクサッキーウイルス A6 型	7 月	3 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37 型	7 月	1 人
その他の呼吸器疾患（夏かぜ）	パラインフルエンザウイルス 3 型	7 月	1 人
その他の呼吸器疾患（上気道炎）	*2 アデノウイルス 5 型	6 月	1 人
	*2 ライノウイルス		
	パラインフルエンザウイルス 3 型	7 月	1 人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 41 型	7 月	1 人
	レオウイルス	7 月	1 人
その他の疾患（不明熱）	コクサッキーウイルス B5 型	6 月	1 人
	パレコウイルス 3 型	6 月	1 人
	パレコウイルス 3 型	7 月	1 人
	ライノウイルス	7 月	2 人
その他の疾患 その他の泌尿生殖器疾患（不明熱）	ライノウイルス	7 月	1 人

*1～2：複数病原体検出例

21 人の患者から 11 種類のウイルス 23 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A6 型 7 株、ライノウイルス 5 株、パラインフルエンザウイルス 3 型、パレコウイルス 3 型各 2 株、アデノウイルス 3 型、同 5 型、同 37 型、同 41 型、コクサッキーウイルス A5 型、コクサッキーウイルス B5 型、レオウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和元年8月解析分)

1. 週報対象(第32週～第35週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ	↑	23	0.67		10	流行性耳下腺炎		6	0.27	
2	咽頭結膜熱	↙	46	2.06		11	RSウイルス感染症	↑	127	5.65	流↗
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	102	4.62		12	急性出血性結膜炎		1	0.14	
4	感染性胃腸炎	↙	299	13.42		13	流行性角結膜炎	↙	17	2.36	
5	水痘	⇒	25	1.14		14	細菌性髄膜炎		—	—	
6	手足口病	↓	184	8.34	流↘	15	無菌性髄膜炎		—	—	
7	伝染性紅斑	↗	40	1.76		16	マイコプラズマ肺炎		1	0.14	
8	突発性発しん	↗	35	1.59		17	クラミジア肺炎		—	—	
9	ヘルパンギーナ	↓	82	3.71	流↘	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—	—	

2. 月報対象(8月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↙	41	4.56
2	性器ヘルペスウイルス感染症	↗	20	2.22
3	尖圭コンジローマ		9	1.00
4	淋菌感染症		12	1.33
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↗	18	2.57
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		—	—

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	↗	↙
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	⇒	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数(令和元年8月分)

第32週～第35週(8月5日～9月1日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	12	115	1,749	14,409
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	3
	16 細菌性赤痢	-	-	9	63
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	5	637	2,381
	18 腸チフス	-	-	8	28
	19 パラチフス	-	-	-	11
四類	20 E型肝炎	-	1	42	354
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	1	6	41	323
	23 エキノコックス症	-	-	2	14
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	12
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	1	2
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	2
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	10	71
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	8	23
	40 つつが虫病	-	-	1	82
	41 デング熱	1	3	90	282
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	1	1	38	154
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	2
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	-	11	37
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	2	9
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	1	1
	61 レジオネラ症	-	17	250	1,515
	62 レプトスピラ症	-	-	3	9
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	1	6	63	579
	65 ウイルス性肝炎	-	6	24	221
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	5	202	1,391
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	6	55
	68 急性脳炎	-	13	50	615
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	5	13
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	1	3	19	126
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	69	638
	72 後天性免疫不全症候群	-	9	91	789
	73 ジアルジア症	-	-	5	32
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	43	401
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	3	31
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	23	126	2,320
	77 水痘(入院例に限る。)	-	1	34	328
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	3
	79 梅毒	8	60	537	4,431
	80 播種性クリプトコックス症	-	2	7	98
	81 破傷風	-	-	17	90
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	6	52
	84 百日咳	22	55	1,469	11,579
	85 風しん	-	13	95	2,156
	86 麻しん	-	6	5	676
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	4	22